

【参考】

「縄文の女神」は1992年の発掘調査で見つかり、半径3メートルの範囲から出土した5つの破片をつなぎ合わせて元の姿に復元したものです。約4,500年前の縄文中期に作られたものと言われ、大きさは高さ45cm、肩幅17cmです。全身のわかる日本の土偶の中では最大で、縄文人の美術工芸のすばらしさを示すものとして、2012年に国宝に指定されました。

約四五〇〇年の眠りから覚めた国宝

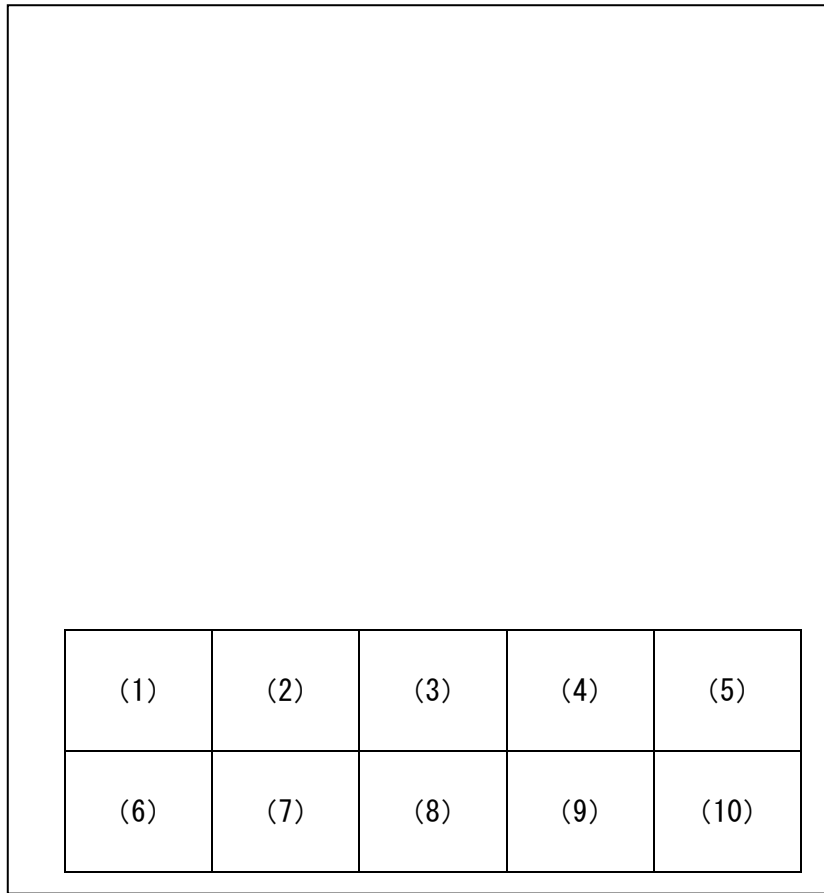
縄文の女神

舟形町西ノ前遺跡出土 山形県立博物館所蔵

切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、初丁としてご利用いただけません。

郵便料を納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に溝口がかかることがあります。

©2012 郵便事業株式会社



※ (1) ~ (10) まで全て「国宝 縄文の女神」を題材にしています。

【切手選定理由】

「国宝 縄文の女神」の姿かたちは直線や弧線を巧みに組み合わせたフォルムで、「横から見る」ことを意識した造詣と考えられています。様々な角度から撮影した画像を選定し、「国宝 縄文の女神」の魅力を伝えていきます。

画像は所蔵元の山形県立博物館からご提供いただきました。